

令和7年度の学校評価

重点目標	①児童生徒及び職員の人権を守り、多様な一人一人を認め合う学校づくりを進める。 ②児童生徒が安心安全に学習できる場となるように環境整備を進める。 ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善に取り組む。 ④交流及び共同学習を充実させ、卒業後も見据えた関係諸機関との連携体制を整える。 ⑤学校内外の研修の機会をととして肢体不自由教育における専門性の向上に努める。 ⑥教育活動の充実と職員の働きがいの向上を目指し、業務内容の見直しをする。	
	具体的方策	取組結果(自己評価)、次年度の課題
①	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の思いや考えを尊重した指導支援を行う。 児童生徒の実態に合わせ、自分のよいところを見つけるなど人権に関する授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権週間では、職員研修を行い、人権について知識や理解を深められる機会となった。児童生徒が幸せになることを考え、自分のよいところ、他の人への感謝、ふわふわ言葉などを記入した葉っぱを、校内に作った幸せの木に貼り付け掲示し、互いを認め合う活動を行った。今後も人権に関する意識を高め、広めていけるようにする。
②	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する知識や理解を深める。 防災の種類に応じた実践的な訓練を計画し、避難訓練に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練では、トランシーバーを活用して実施することで、校内で電波が受信できない範囲が確認できた。今後は、使用範囲を考慮して使用できるように職員に周知する。 火災報知機の作動から、事務室での操作手順や全校放送までの流れなどに課題が出た。今後、全職員に火災報知器等の機器の取扱いについて研修する。
	<ul style="list-style-type: none"> 事故防止に向けた取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故やヒヤリハット事例を、発生後すぐに全職員に周知するとともに対応策を確実に実施してきた。また、大きな事例の場合は職員会、部会、朝礼等で注意喚起を行った。その結果、同じ事例が発生することはなく職員の意識や行動が改善された。様々な要因が重なることで事故等が発生するので、事例を分析し今後の事故防止につなげていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 学年会計の処理方法の変更の周知・徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の係会で変更について周知し、学年会でも全体に周知した。また、手順を示したマニュアルを作成した。1期には問い合わせや修正箇所が一定数あったが、2期はスムーズに締め作業までを行うことができた。職員からはおおむね好評であった。今後は、マニュアルや書式をより分かりやすい形に修正していく。
③	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人の実態に合った目標、手だてを設定し個別最適な学びの充実を図るとともに、学習集団を工夫して協働的な学びの機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画や個別の指導計画等の諸表簿の見直しを行った。現職研修において、個別最適な学びと協働的な学びの目的等に関する説明を行い、各部学習集団を工夫して協働的な学びの機会を増やした。知的障害のある児童生徒の各教科の指導を充実させるために、今年度教育課程Bの「学びの記録シート」を作成した。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動において、児童生徒が自身の力を十分発揮できるように、個に応じた情報機器や支援機器の利活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度後半に、教員用端末、ネットワーク等の大規模更改があり、ICT活用環境に大きな変化があったが、利用ルールやマニュアル等の整備、サーバ等の環境整備を進め、新環境へのスムーズな移行やメリットを生かしたICT活用を進めていくことができた。個別の相談を充実させ、個に応じた支援機器等の活用を進めた。
④	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な進路選択ができるように、進路に関する情報を家庭と学校が共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援、生活介護、就労支援、就業・生活センターの担当者を講師に招いて、福祉サービス説明会を行った。ほとんどの保護者と職員が、さまざまな福祉サービス事業所について知ることができた。また、卒業生を講師に、卒業後の生活についての講話を行った。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の調整や校外研修の紹介を行い、職員の専門性の向上に努める。 各校務分掌と連携し、現職研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の校内研修では、多くの職員が参加できるように時間帯の調整に努めた。校外研修では、案内を校内掲示板で紹介し、各種研修に参加することができた。 各分掌と連携し、いろいろな研修を実施することができた。当日参加が難しい職員に向け校内掲示板を活用して資料添付を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のニーズを明らかにし、それに応じた支援や自立活動の指導ができるように、研修や自立活動相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のニーズがより明らかになり関係職員の共通理解が図れるように、目標設定シートの改善を進めた。また、個に応じた支援や指導ができるように、要望に応じた研修や外部専門家、専門性の高い職員による自立活動相談に取り組んだ。新転任者研修やプール学習事前研修について、内容の強化に取り組んでいきたい。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の成長が実感できる指導・支援の充実を図り、働きがいにつなげる。 職員の働きやすい環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画等の評価から児童生徒の成長が実感できるが、指導・支援の成果を振り返る時間や協働のための業務的余白には課題がある。 教師、介護員、看護師等が連携することで安心して指導・支援ができていく。今後は協働の質的向上を図る。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<input type="checkbox"/> 人権尊重 <input type="checkbox"/> 安心安全な学校 <input type="checkbox"/> 授業内容の充実	
総合評価	今年度の重点目標は概ね達成することができた。明確になった課題については、今後、改善に向けて学校全体で取り組んでいく。今後も、児童生徒や職員の人権が尊重され、誰もが生き生きと活動できる安心安全な学校を目指す。	